

平成 25 年度

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300019		
法人名	㈱サンメディックス		
事業所名	グループホームにこトピア浄法寺		
所在地	岩手県二戸市浄法寺町上前田39番地		
自己評価作成日	平成 25年 11月 8日	評価結果市町村受理日	平成26年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0391300019-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元小学校という事もあり、施設となっているが建物内は小学校のなごりが残っている。敷地が広いという事もあり、地域住民のゲートホールの練習の場、大会と活用されており、住民との交流の機会にも繋がっている。
当施設では利用者の生活状況を可能な限り実現すべく、散歩、家事、創作作業と1人1人にあった内容の役割をつくり、刺激ある生活を送っていただけるよう関わりをもっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

廃校舎を綺麗に改修しており、ホールや廊下、トイレは広く、ゆったりと落ち着いて過ごせる造りである。敷地内の広いグラウンドや体育館は利用者の散歩や運動に活用されている。理念に即したケアを実践していくため、「目標管理シート」により支援内容を「接遇」、「生活環境」、「感染」の3項目に分け、それぞれの個別ケア毎に達成度を、年2回、職員の自己評価と管理者評価により点検し、振り返りながらサービス向上に繋げている。家族とは、「いつでも何でも気軽に言ってもらえる雰囲気づくり」を職員に徹底し、家族とのコミュニケーションを大事にしながら、面会時や定期的な家族アンケート等を通じて、その思いや希望等をきめ細かく汲み上げてケアに反映させるとともに、毎月の「にこにこ通信」により利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えて安心感を持たれている。このような取り組みによって、家族とは深い信頼関係が築かれ、多くの家族から気軽に色々な相談が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、理念の唱和をして共通意識をもち、業務を行っている。	昨年、理念が実践に繋がっているか職員全員で再確認を行い、利用者の思いの実現を一緒に考えることを基本にした新しい理念を定めた。職員全員の共通理解のもと、理念に即したケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ゲートボール大会見物、地域行事への参加と地域住民との関わりの機会をもっている。	敷地内での地区のゲートボール大会、小学校のバレーボール大会の会場、旧校庭も含め消防団の訓練会場に提供し、そうした機会を通じて地域の人達と交流を図っている。毎年、中学生との体験学習交流でのふれあいも楽しんでいる。	ホームへの地域理解を深め、相互協力関係を築いていく上でも、地域の方々、団体と積極的に関わりを持って交流を深めていかれるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物、祭りへの参加と社会資源との関わりをもち、地域住民と直接接する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーへの施設状況の伝達、メンバーからの疑問に対する意見交換を行っている。	2か月に1回開催され、ホームの運営状況や事業計画、利用者の状況等を中心に話し合い、情報交換を行っており、委員の発言も活発である。「冬場の居室前廊下の寒さ対策の必要性」の意見は検討課題としている。	幅広い観点からの意見・提言を得るとともに、ホームへの理解・協力の輪を広げたい。委員の選定やテーマ設定等会議の活性化に向け、一層の取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	渉外活動を通じて、施設状況の伝達、情報交換を行っている。	市の総合支所の福祉課や包括支援センターに2か月に1回程訪問して運営面やケア面の実情を説明したり、相談を行っている。職員からはその都度、適切に指導助言や情報提供を得ており、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを使用して利用者の動きの障害をしないようにしている。身体拘束勉強会を通じて知識を習得している。	マニュアルをもとに職員会議等で理解を深めながら取り組んでいる。利用者が外出しようとする場合も同行して見守るなど、抑圧感のない暮らしの支援に努め、特に言葉による拘束に注意するよう職員間で確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待勉強会を通じて理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護勉強会を通じて理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、説明と同意にて不明な点を説明している。契約解除の際も家族の不安な点を聞き、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケートを通じて、改善計画を作成し、解決に向けて対応している。	毎年家族アンケートを実施し、運営内容や職員の態度など17項目にわたり確認するほか家族との面会時にきめ細かく意見・要望の把握に努めており、「ホームの来客用駐車場の明示」等の意見は運営改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を行い、職員の意見交換をしている。	職員会議は毎月開催され、職員は管理運営、業務運営全般について意見を述べる機会がある。リネン交換の曜日の変更やインターネット活用の物品購入などの提案は業務改善に活かされている。経営責任者と職員との個別面談の機会も持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事、買い物と地域に出向き住民との関わりをもっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内、外への研修に参加して、勉強会を通じて職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック研修を通じて、勉強会、意見交換をし、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談をし、不明な点を解決できるよう関わりをもっている。入所時、マンツーマン対応して精神的緩和をもっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、家族の要望を聞き、支援内容に組み込んでいる。入所後については電話連絡をとり近況を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時、利用者、家族の意向を踏まえてケアに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗洗い、洗濯たみ掃除等職員と一緒にやっている。天候の良い日は多数で散歩に出かけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報、電話を通じて近況を報告している。時には利用者に電話にでいただき、直接会話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院対応、電話を通じて利用者、家族または身内の方との関係性の疎遠にならないよう支援している。	主に家族の協力を得て墓参りをしたり、家族付き添いの病院受診時に合わせて馴染みの場所にドライブしたり、美容院を利用して貰ったりしている。友人や知人が訪ねてくる方もいる。また、家族と連携し自宅に電話をかけたりする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入り、関わりを持っている。職員を通じて他利用者との関わり合いの機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、利用者の状況を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに反映して統一したケアを行っている。	利用者との日常の会話と併せて、入居時の相談記録や日々の職員の連絡帳をもとにきめ細かく本人の思いや希望の把握に努めケアに反映させている。意思疎通の難しい場合は家族から聞いたり、本人の思いを推し測りながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活状況に合わせて日頃の関わりに役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を用いて個々の生活状況について記録をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを通じて、利用者の現状に合わせた支援を行っている。	毎月のカンファレンスで職員全員でプランの項目毎に実施状況をチェックし、生活援助計画(ケアプラン・評価表)にまとめながら、6か月毎に見直している。変更が必要の場合は家族に説明、確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡帳に記載してカンファレンスに役立て支援に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設に出向き、交流の幅を広げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への祭り参加をして関わりを持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、主治医との意見交換をしている。他機関の病院にかかった場合は情報提供をして医師に状況を理解していただくよう努めている。	本人・家族の希望する「かかりつけ医」であり受診はホームの協力病院を除いて家族に依頼している。家族、医療機関とは利用者の状態についてお互いに正確な情報を共有できるように、資料提供や連絡・報告を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	排泄等、医療的アドバイスをもらい、支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリーを作成して医療機関に提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を契約時に結び、契約に沿った対応をしている。	「重度化及び看取り介護」に関する指針を作成し、利用契約時に本人・家族に、医療行為を除いて最大限可能な支援を行うことを説明し理解を得ている。在宅では医療や看護など地域全体の支援体制の確立が必要であり、地域密着型施設として看取りのあり方について関係機関と話し合うことを始めたいとしている。	ケアの体制や内容・方法等、職員で工夫・研究を重ねながら、指針に即し本人・家族の意向に沿った支援の実現に向け、取り組んでいかれるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED機器備えている。講習を通じて操作方法を理解して急変時、対応できる体制である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を通じて、地域消防団員との連絡体制、協力体制を築いている。	火災・地震等に備えた防災訓練は年1回、夜間想定避難訓練等を消防署の立会いのもと、地元消防団員(30人)の協力も得て実施している。スプリンクラー、AEDは設置されている。消防署の指導を得て定めた避難方法や避難経路を職員全員で何度も確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアル、接遇チェック表を用いて関わり方の留意点を踏まえて対応している。	利用者の人格尊重を基本姿勢として、自尊心やプライバシーを損ねない丁寧な接し方や言葉遣いに努め、4半期ごとに接遇チェック表に基づき各職員の自己評価・管理者評価を行って対応を振り返りながら、利用者への接し方の改善向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動に制限を設けず、自己決定を第一に支援している。訴えに合わせて職員と行動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動の制限はなく、訴えに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類準備の際、選択して頂いている。可能な限り自分で整容できるよう見守りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成の際、利用者の趣向を取り入れて献立作成をしている。役割をもつていただき、配膳をして頂いている。	献立、食事作りは職員が交替で行い、利用者の希望を献立に反映させている。また、利用者が野菜のささがきなど下拵えやテーブル拭き、配膳、後片付け、茶碗拭きなど、食事の手伝いにも楽しく関わられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、排泄チェック表を用いて状況把握をしている。配膳時、小分け等、個々に合わせた状態にして、食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日課に口腔ケアをいれており、習慣化している。自力で困難な方に対しては介助にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用せずトイレにて排泄行為をして頂くよう支援している。	排泄チェック表により排泄パターンを把握して、利用者に応じてさり気なくトイレ誘導を行い、羞恥心や不安を覚えずに気持ちよく排泄できるよう支援している。これにより、排泄の自立度が向上した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者のタイミングに合わせて入浴をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のタイミングに合わせて入浴をしている。	1日おきに午後から夕方にかけてゆっくりと入っている。仲の良い人同士で入ったり温度も利用者の好みに合わせて調節している。職員は見守りを中心にひとり一人の希望に応じて気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のタイミングに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録、薬の説明文を確認して、個々の内服状況を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握して、草取り、茶碗拭き、掃除と1日の中で張り合いをもった生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩の他に、買い物同行と会話の中ででた訴えを実現できるよう支援している。	日常的にホーム周辺を散歩をしたり近くのスーパーにお菓子やアイスクリームを買いに行ったりしている。冬は積雪が多く外出が出来なくなることから季節のいい時季に浄法寺祭りや天台寺の紫陽花祭、花見、紅葉狩り等ドライブに出掛ける機会を出来るだけ持てるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事を通じて金銭のやりとりをする機会を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、いつでも利用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	創作物の掲示、見当識能力低下の方に対しては居室に名前をつけており極力混乱を招かないよう配慮している。	廃校舎を綺麗に改修しており、ホールや台所、廊下、トイレ等は広くゆったりとして、明るい色合いでさわやかさも感じられる。ホールにはソファのほか、畳敷きの上にコタツも置かれ、壁には季節に応じた利用者・職員手作りのちぎり絵等がすっきりと飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ、こたつと設置して利用者が共有して過ごせるスペースを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの物を利用して頂くよう家族を含め利用者に説明して馴染みの物を用意して頂いている。	居室の名前に花や鳥の名前を使い、ベット、ロッカー、ソファ等が備え付けとなっており、簡素で清潔感のある部屋に馴染みの小物や写真、人によっては位牌等を持ち込み、夫々が個性的で雰囲気のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりの設置、バリアフリーとしており、自立した生活を送れるよう環境を整えている。		